

南アフリカ為替週報

2022年5月26日 | みずほ銀行欧州資金部

＜過去1週間の動き＞

(5月19日～5月25日)

USD/ZAR: 15.5650～16.0800

ZAR/JPY: 7.96～8.16 (参照値)

過去1週間の南ア・ランド相場は、対ドル、対円共にほぼ一方的な上昇。その値幅、水準に特筆すべき点は認められなかったものの、ランド高に寄与したと思われた要因にも、ランドの水準感を決定的に変えるほどのインパクトは見いだせなかった。ランド上昇を誘った最初の要因は、19日の南ア準備銀利上げ。市場の予想は+50b.p.を中心としていたものの、無視できない少数派が+25b.p.の小幅利上げを予想していた。したがって、「予想以上の大幅利上げ」と言える要素(ランド押し上げ要因)は少なからずあったはずだし、その決定が4-1の多数決(3-2の僅差ではなく)であった事実も、ランド押し上げ方向の圧力を供給した可能性は考えられた。次にランド押し上げ要因と受け止められたのは、20日の北米市場引け後に一部大手格付会社が発表した南ア信用格付見通しの引き上げ(注1)。同社の格付見直しは定例のものだったが、この見直し引き上げは見込まれておらず、市場にとっては相応のサプライズとなった模様。週明け23日以降のランド堅調に、この見直し引き上げも少なからず貢献したものと考えられた。この間、並行して、円が対ドルで断続的な上昇を繰り返していたことから、対円でのランド上昇幅は(対ドルのそれよりも)限定的となった。更言うなら、主要通貨ではユーロの堅調が支配的で、ランドも対ユーロでは概ね横ばいの域を出なかった。ユーロ堅調の背景には、23日のラガルド総裁他、欧州中銀首脳が相次いで7月の利上げ開始を示唆したことが考えられた。

＜過去1週間に発表された主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
5/19	13:12	南ア準備銀政策金利		4.75%	4.75%	4.25%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

＜向こう1週間の見通し＞

(5月26日～6月1日)

USD/ZAR: 15.400～15.900

ZAR/JPY: 8.00～8.25

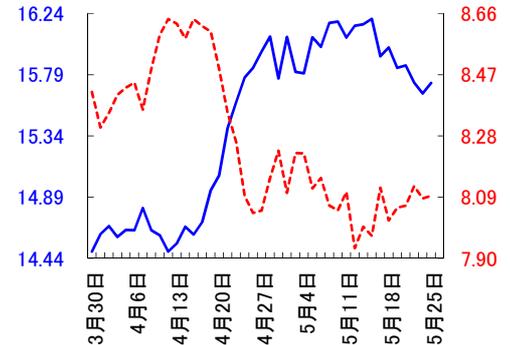
向こう1週間の南ア・ランド相場は、今しばらくの堅調推移継続を予想。上述したランド押し上げ要因は、いずれも、中長期的なランドの方向感を変えるほどの決定力は感じられなかった。南ア準備銀の名目政策金利は、+50b.p.の利上げ後でも、新興市場通貨のそれとして高い方とは必ずしも言えない。投資家の目線で実質金利(名目金利-(期待)インフレ率)が重要なのは事実だが(注2)、名目金利で見るか、実質金利で見るかで見え方が変わるような交錯した要因が、ランドの中長期的押し上げに寄与するとは考え難い。南ア信用格付見通しの引き上げも同様で、引き上げが好感できるのは勿論だが、同社の南ア自国通貨建長期国債格付けは、投機的等級の上から2段目にあり、仮に近い将来格上げがあったとしても、投資適格級復帰はまだまだ先の話。米、ユーロ圏など主要国・経済の長期金利がじわじわ上昇する局面で、国際的な投資資金が南ア国債に向かうようなシナリオも描き難い。それでも今しばらくのランド堅調を中心に見るのは、今しばらくのドル安継続を見込むから。足元ドル安は、昨年央から1年近く続いたほぼ一方的なドル上昇の調整安と位置付けるが、その直接のきっかけは米長期金利の頭打ちが与えたと思われる。米長期金利の頭打ちには米株の頭打ちが大きく寄与しており、米株頭打ちの背景には米景気後退懸念の広がりがある。「リセッション」だの「スタグフレーション」だの言う単語を盛んに耳にするようになったこと自体は、織り込みの進捗=実際の景気後退が回避/限定される可能性を意味するとも考えられる。ただ、こうした単語が声高に聞こえてくるのは裏腹に、市場全般で、米国債の買い持ちの構築やドル売り持ちの仕込みが進んでいる気配が感じられないことが、もう一段のドル下落余地を示唆しているように思われる。

＜向こう1週間に発表予定の主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
5/30	12:00	財政収支(ZAR)	4月			-37.2bn
5/31	6:00	民間部門信用(前年比)	4月			+5.89%
	9:30	失業率	Q1			35.3%
	12:00	貿易収支(ZAR)	4月			+45.9bn
6/1		自動車販売統計(前年比)	5月			+4.3%

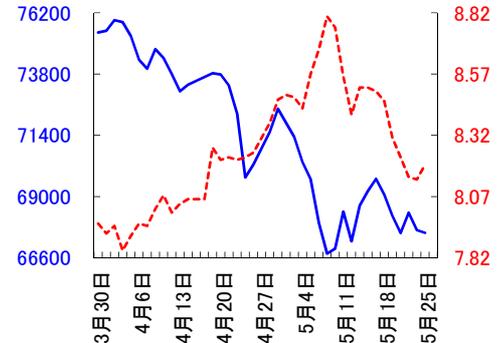
為替相場の推移(資料:ロイター)

実線/左軸: 対米ドル、点線/右軸: 対円



株式/長期金利の推移(資料:ブルームバーグ)

実線/左軸: JSE全株、点線/右軸: 10年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レボ金利)		4.75%
長期金利(10年スワップ)	5月25日	8.200%
株価指数(JSE全株)	5月25日	67585.25
成長率(GDP/前年比)	Q4	+1.7%
経常収支(ZAR)	Q4	+120bn
失業率	Q4	35.3%
消費者物価(前年比)	4月	+5.9%
小売売上高(前年比)	3月	+1.3%
製造業生産(前年比)	3月	-0.8%
鉱業生産(前年比)	3月	-9.3%
貿易収支(ZAR)	3月	+45.9bn
金価格(ロンドン17:00)	5月25日	1845.90

(注1) 中立→格上げ方向

(注2) 実質金利で見れば、南アのそれは、主要国/新興国との比較で高めの水準にあると言える

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。